

2025.12

冬

広島県 医療勤務環境改善支援センター

News Letter

第14回 医療勤務環境セミナー 開催

令和7年9月10日（2025年）、ホテルメルパルク広島およびオンラインにて「第14回 医療勤務環境セミナー」（主催 広島県、共催 広島労働局）を開催し、県内の医療機関など26施設から45名以上うち3名は会場にて参加されました。

まず、広島県健康福祉局医療介護基盤課 加川伸課長より冒頭あいさつを行いました。その後、広島県医療勤務環境改善支援センター（以下、勤改センター）の医業経営アドバイザーより、10年間支援している医療安全研修と勤務環境チェック（無料）のことや、最近支援を開始したコミュニケーションツール（トーキングエイド）を用いたワーキンググループなど支援内容や反響について講演しました。

最後に高橋素子先生より、看護師の離職防止や雇用策について特定行為看護師のを中心として特別講演がありました。（以下、参照）

「特定行為看護師等を活用した勤務環境改善例

～ 医師からの評価が起点に相乗効果となり、気づけば雇用策へ ～」

平成立石病院 副院長・看護部長 高橋素子先生

北九州市にて公益財団法人病院の看護部長定年後、2016年から三鷹市の病院から声をかけていただき副院長兼看護部長として勤務し、2019年からは現在の平成立石病院（葛飾区）で同じ職位にて勤務しています。平成立石病院は203床ですが、年間8,900件の救急を受け入れる大変忙しい病院です。救命救急士が20名弱おり、救急患者の受け入れや特定行為看護師らと3次救急などへの搬送も行っています。

就任した頃、看護師の残業は月20～30時間あり就職して3日後に辞める看護師もいました。医療機関にとって看護師確保は重要な課題です。看護師採用のうち9割は派遣会社からの紹介でしたが、今では3分の2まで減っています。

看護師確保にはまずは声かけです。看護実習生の名前や学校、出身も覚えて、「准看護師をとったらこの病院にいらっしやい」などとみんなに声かけし、准看護師には進学や奨学金を勧めました。当病院にきて6年間で、准看護師は20人から2人に減り看護師も増え、病院の看護体制は10対1から7対1になりました。



ご講演される高橋素子先生

特定行為看護師は看護部付けにして、2人一組で育成していく



図. NPチームの活躍の実際
(基本、2名以上で)

令和6年時点で特定行為看護師を育成する指定研修機関は426施設となっていますが、9年前に指定研修機関の申請をした時には全国でまだ50施設ほどでした。

特定行為看護師を育てる際のポイントの一つは、苦しいですが最初1人でなく2人同時に育てることです。特定行為看護師が一人で孤軍奮闘し疲弊しないようにするためです。特定行為は基本2人で実施し、1人は医師役もう一人は看護師役(ストップ役)となり不具合発生時等には医師に連絡する役目を担います(左図)。この特定行為看護師を守るシステムのなかで、2人は切磋琢磨しながら育っていきます。また、特定行為看護師は医局付けにせず看護部付けにし、特定行為看護師を2年すると病棟副主任にしていけます。これで経済的にもよくなります。このようなことは看護部付けでないとできません。

医師も特定行為を高く評価、若手看護師も面接に来るように

現在、特定行為看護師らは10名でNPチームとして活動しています。実際には動脈穿刺法による採血や末梢留置型中心静脈カテーテル(以下、PICC)等をしています(右図)。PICCについてはNPチームがほぼ全件実施しており、PICCだけで年間282時間の医師や看護師のサポートとなります。医師も特定行為の即応性を高く評価しています。病棟看護師も看護記録など自分の業務ができるようになり、月20~30時間あった残業は月2.5時間ほどになり看護師も笑顔で帰れるようになりました。

また、学会の参加補助をしたり、現場の要望に応じて認知症をテーマに約30分のミニ講義を薬剤部にシリーズでお願いしたり、臨床心理士が悩みを聞いてくれる相談室を設置したり、教育や職場環境の整備にも日々努めています。ミニ講義もあって薬剤部と看護部はとてもいい関係です。

医療スタッフも連携が上手いっている病院がいいのです。最近では、特定行為看護師に興味があると若手の看護師も採用面接にくるようになりました。

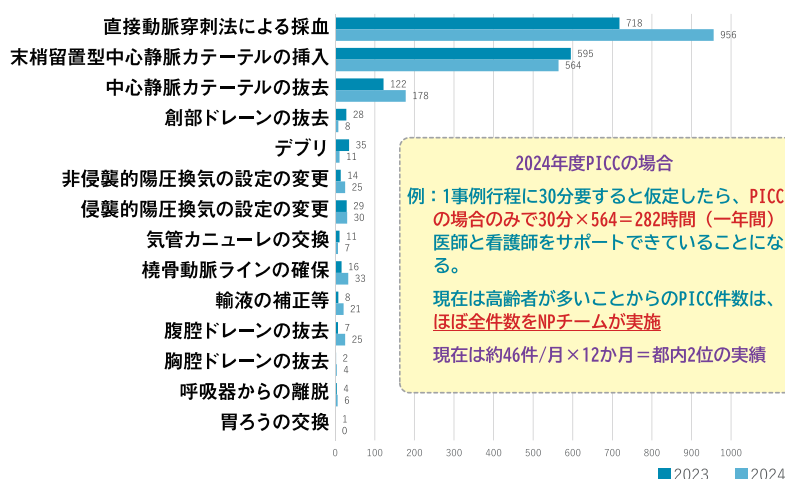


図. 特定行為実施内容

お問い合わせ

広島県 医療勤務環境改善支援センター 広島県健康福祉局医療介護基盤課内

TEL:082-513-3056

受付時間: (平日)9時~17時
(土日祝日、年末年始を除く)